

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 4 月 28 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500290

研究課題名(和文) 自発的学びを醸成する公共図書館の生涯学習機能に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical research on the function of lifelong learning at public libraries which foster autonomous learning activities

研究代表者

吉田 右子 (Yoshida, Yuko)

筑波大学・図書館情報メディア系・教授

研究者番号：30292569

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では利用者の自発的学びを通じてエンパワーメントと学習を高める装置としての公共図書館の可能性を自律的な学習者の活動様態を通じて実証的に明らかにした。公共図書館の自発的学びとエンパワーメントの史的展開を検討し分析モデルを構築した。次いで特定の学習グループに焦点を当て、自主刊行メディアの内容分析を通じて活動内容を明らかにした。さらに参加者にとっての活動の意味を同定するために、長期活動者のオーラルヒストリーのミクロ分析を通して学習コミュニティと自律的学習の構築プロセスを討究した。本研究の独創性は、公共図書館における自主的学習活動とエンパワーメントモデルを、その実質とともに提示した点にある。

研究成果の概要(英文)：This study examines the potential for public libraries to act as mechanisms for boosting the empowerment and autonomous learning efforts of participants. It also provides a broad picture of independent learners via an examination of the actual content of their activities. After considering the history of autonomous learning activities and empowerment in public libraries, analysis models are constructed. To clarify the substantial content of autonomous learning activities, the author chose a specific group and traced their history through a content analysis of self-published documents. In addition to identifying the meaning of these activities to the participants, a micro approach that focuses on the creation process of autonomous learning is conducted through analysis of oral history provided by a longtime activist. The originality of this study lies in its presentation of autonomous lifelong learning activities and empowerment models alongside the tangible presence of a learner.

研究分野：図書館情報学 公共図書館論

キーワード：公共図書館 生涯学習 エンパワーメント

1. 研究開始当初の背景

(1) 現代の公共図書館は学習支援・ビジネス支援・文化プログラムの実施など、資料提供以外の複数の機能を持つようになっていく。こうした多様な活動は広く住民の支持を得ており、公共図書館は地域社会において一定の存在意義を認められている。その一方で公共図書館の役割が拡大化することによって、中心的な機能がとらえにくくなっている。また図書館以外の関連セクターによる情報サービスの提供、電子書籍の普及、インターネットの検索サイトの進化などにより、図書館の求心力が相対的に弱体化している。こうした状況にあつて公共図書館の存在意義を明確にしその理念基盤を再構築することが強く求められている。

(2) 公共図書館は伝統的に自主学習グループのエンパワーメントの場として機能してきた。とりわけ日本では「公共図書館それ自体」を学びの対象とし、図書館の在り方を追究する市民グループが半世紀にわたり活動を展開している。これは1960年代後半から自主的に発生した図書館設置運動に関連して、図書館作りに関わる市民の自主的な勉強会として生まれ、図書館設立後も活動を続け今日に至っているものである。活動者は圧倒的に女性が多く長期活動者が多いことが特徴である。

(3) 公共図書館を拠点にした女性の自発的学習やエンパワーメントに関しては、近年、北欧諸国における移民女性の図書館利用に関連づけた研究がみられるようになっている (R.A. Audunson et al, "Public libraries: A meeting place for immigrant women?" *Library & Information Science Research* 33 (3), 2011, p.220-227.他) 日本では公共図書館における女性の自発的な学習の歴史は、学習者自身の手によって報告書という形で記録

されてきた。また公共図書館を拠点とした学習活動の前身となった図書館作り市民運動を扱った文献は多数存在する。(東村山市立図書館編集『文庫を生きる』(東村山市, 1978, 195p.他) しかしこれらの活動を対象とした学術研究はHottaの博士論文(Ann Miyoko Hotta *Children, Books, and Children's Bunko: A Study of an Art World in the Japanese Context*. PhD. University of California at Berkeley, 1995) など少数の例外を除いてほとんど行われていない。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、生涯学習機関としての公共図書館の役割に関する実証的な研究を行う。公共図書館は生涯学習をその存在意義の中心に掲げ、住民のニーズに合わせた学習支援を行ってきた。公共図書館における生涯学習は幅広い射程を持つ活動として展開されている。本研究では公共図書館に特徴的に見られる、図書館を拠点とした女性のエンパワーメントに関わる活動および図書館自体を学びの対象とした自主的活動に着目し、その実践を公共図書館固有の生涯学習の様態としてとらえた上で、そうした学習活動のプロセスと成果を実証的に明らかにすることを目的とする。

(2)(1)の解明によって、女性の自発的学習実践が他機関によって代替できない生涯学習機関としての図書館固有の性質と結びついた活動であることを示すことで学習の場としての図書館固有の性質を解明し、生涯学習機関としての公共図書館の持つ潜在的な可能性を提示する。

3. 研究の方法

(1) 公共図書館に特徴的な女性の自発的な学びとエンパワーメントにかかわる実践活動を、公共図書館理念の普遍性と設置地域

(日本、アメリカ、北欧)における個別性に留意しながら、その全体像を文献調査によって整理した。

(2)(1)の結果から、日本の公共図書館において展開されてきた図書館作り運動から現在の図書館支援活動を、図書館自体を学びの対象とした主体的な学習活動としてとらえ、特定の学習グループに焦点を当て、対象グループの史的展開を踏まえてその活動の全体像を実証的に分析した。

(3)日本の公共図書館において、図書館を学びのテーマとして自発的学習に取り組んできた特定グループに焦点を当てその活動史と活動実態をメンバーによって蓄積された活動記録データから明らかにするため、自主発行定期刊行物の内容分析を行った。

(4)日本の公共図書館において、図書館を学びのテーマとして自発的学習に取り組んできた特定グループの長期活動者へのインタビューを行ない、その学びの中核をなす実践と理念を言説の分析から実証的に解明した。インタビューにおいて質的調査法の一手法であるライフヒストリーインタビューを導入し、事前にインタビューの中心となる質問を設定し、インタビュー時の会話を手掛かりに質問項目を構築していく半構造化インタビューを行なった。

4. 研究成果

(1)公共図書館における「女性の自発的学び」という営為を明らかにするため、これまでの活動実践を史的展開(20世紀初頭から現在まで)および地域的展開(日本・アメリカ・北欧)を視野に入れて分析し、公共図書館に特徴的な女性の自発的な学びとエンパワメントにかかわる実践活動を整理し、本研究の分析モデルの構築を行なった。

(2)日本の公共図書館において展開されてきた図書館作り運動から現在の図書館支援活動を、図書館自体を学びの対象とした主体的な学習活動としてとらえ、史的展開を踏まえその全体像を検討した。そして公共図書館が生涯学習装置として持つ普遍的/基本的機能の中に女性のエンパワメント支援が含まれていることを明らかにした。

(3)日本の公共図書館において、図書館を学びのテーマとして自発的学習に取り組んできた特定グループに焦点を当て、図書館に関わる自主学習に関わる記録資料を入手した。収集した自主刊行資料の分析を行い、「図書館に関する主体的学び」の表出をグループメンバーの記録データから抽出することにより、自律的学びの実質的な内容を実証的に明らかにした。

(4)日本の公共図書館において図書館をテーマに自発的学習に取り組んできた長期活動者へのインタビューを実施した。インタビューではライフヒストリーを射程に入れつつ、活動のきっかけ、活動の歩み、図書館との関わりなどを中心に調査を行ない、活動者の生活と主体的な学びの関わり、活動者による自主学習活動と図書館への意味付けに関わる言説を抽出し、ジェンダーとエンパワメントを鍵概念として分析を行った。

(5)(1)から(4)を通じた公共図書館における生涯学習とジェンダーに着目したマクロな視点と活動者の個人の学びの軌跡に焦点を当てたミクロな分析とを重ね合わせた結果、研究対象となる自主的学習グループの活動者が、公共図書館という活動の拠点を基盤として自分たちで学習を組み立てていく能動的学習者となっていく軌跡を同定することができた。研究対象となった活動実践は、

公共図書館における自己学習の潜在的可能性を映し出したものであり、公共図書館の生涯学習機関としての存在意義を実証している。本研究において公共図書館における自発的学習の様態をジェンダーとエンパワメントの視点から分析することで、女性の自発的学習実践が他機関によって代替できない生涯学習機関としての図書館固有の性質と結びついた活動であることを解明したことによって、生涯学習機関としての図書館の進路について、具体的な方向性を示した。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

吉田 右子、対話とエンパワメントを醸成する 21 世紀の北欧公共図書館、現代の図書館、査読無、Vol. 52, No. 2、2014、42-50、https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=31326&item_no=1&page_id=13&block_id=83

Yuko Yoshida, Public libraries as places for empowering women through autonomous learning activities, Information Research, 査読有, Vol. 18, No. 3, 2013, <http://www.informationr.net/ir/18-3/colis/paperC20.html#.VTgQgWTmko>

[学会発表](計1件)

Yoshida, Yuko, Public libraries as places for empowering women through autonomous learning activities, The Eighth International Conference on Conceptions of Library and Information Science at the Royal School of Library and Information Science, Copenhagen

University (Denmark), August 19-22 2013.

[図書](計1件)

吉田 右子、エンパワメントを醸成する 北欧公立図書館 (川崎良孝 編著『図書館トリニティの時代から揺らぎ・展開の時代へ』京都図書館情報学研究会、2015 年、497p. p.341-368 所収)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

吉田 右子 (YOSHIDA, Yuko)

筑波大学・図書館情報メディア系・教授

研究者番号：30292569